

紙本墨書「梁同書書」保存修復報告

上江洲安亨*1 當間巧*2

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵「梁同書書」である。作品は二幅対の掛幅装であったが、表具装が解体された捲くりの状態であった。折れや亀裂、虫害欠失による損傷が著しかった為、平成25年4月1日から平成26年2月28日、石川堂で修復を行った。

今回の修復では折れや虫害欠失や破損欠損箇所の修復後、再び二幅対の掛幅装に仕立てた。

なお、本作業は上江洲安亨を監督職員とし、主な修復作業、軸表装作業ならび本報告書の分析・作成は當間巧が行った。

II. 作品の形状及び寸法

修復前後の法量は以下の通りです。

1. 本紙

- | | |
|--------|--|
| ①基底材 | 紙 |
| ②寸法 | 修復前 右 丈 97.2 cm 幅 19.5 cm
左 丈 97.5 cm 幅 19.4 cm
修復後 右 丈 97.5 cm 幅 19.7 cm
左 丈 97.7 cm 幅 19.6 cm |
| ③本紙枚数 | 左右共に1枚ずつ |
| ④画材 | 墨・膠 |
| ⑤本紙の特徴 | 継ぎの無い1枚の料紙 |

2. 装丁・修復後

- | | |
|-------|--|
| ①装丁 | 二幅対掛幅装 |
| ②表具寸法 | 右幅 丈 178.5 cm 幅 29.4 cm
左幅 丈 178.8 cm 幅 29.2 cm |
| ③表装形式 | 袋表具 |
| ④裏打ち紙 | 3層
肌裏・楮紙（新調）
増裏・美栖紙（新調）
総裏・宇陀紙（新調） |



修復前 本紙全図



修復後 表具全図

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課長補佐兼営業係長

*2 石川堂 代表

- ⑤表装裂 一文字・薄金茶地花繋蜀江文緞子（新調）
総縁・茶地幾何学文様綾（新調）
- ⑥軸首 黒檀撥軸（新調）
- ⑦収納箱 桐太巻添軸桐印籠箱（新調）

III. 修復前の損傷状況

1. 本紙に虫害欠失、破損欠損箇所が見られた。



修復前 本紙右 中央部虫害欠失



修復前 本紙右 下部欠損箇所



修復前 本紙左 上部欠損破損箇所



修復前 本紙左 中央部虫害欠失

2. 本紙全体に横折れが多数生じていた。



修復前 本紙左 下部 斜光線写真



修復前 本紙右 下部 斜光線写真

下部より斜光線を当て撮影、強い横折れが多数確認できた。

3. 本紙に汚れ・染みが確認できた。



修復前 本紙左 下部 染み・汚れ



修復前 本紙右 上部 本紙染み・汚れ

IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。
2. 墨の剥落止めを行う。

墨の状態を調査した結果、墨字の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 染み・汚れ除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙の欠失、破損箇所に適する補修紙で繕いを施す。

補修紙は、高知県立紙産業技術センターの本紙繊維組成試験結果を基に「宣紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。

6. 表装裂を新調する。

新調する表装裂に関しては、首里城公園管理部の本件担当者と協議し下記の表装裂を選定し用いた。

一文字・薄金茶地花繫蜀江文緞子 総縁・茶地幾何学文様綾

7. 軸首、鐙、八双、軸木、掛け紐等を新調する。首里城公園管理部の本件担当者と協議し、修復後の軸首は「黒檀撥軸」中国産を選定した。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白薄絹袱紗を新調する。

収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

9. 高知県立紙産業技術センターに委託し、本紙の繊維組成試験を行う。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。
2. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、虫害欠失、破損欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、同質の宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸

化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復中 本紙補修作業

3. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

右：修復中 本紙の肌裏打ち作業



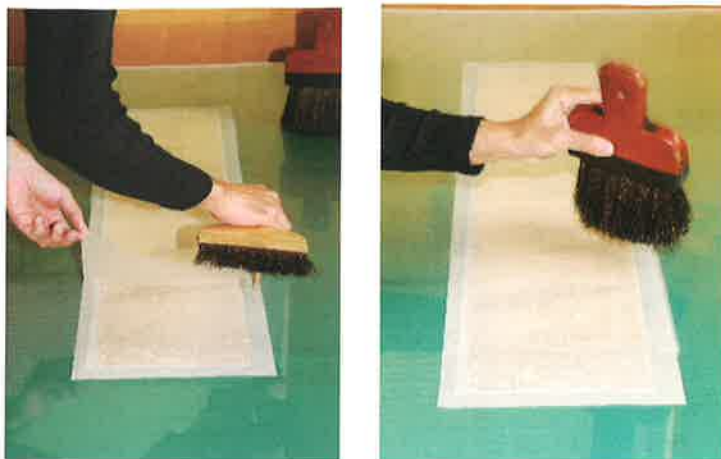
4. 新調した表装裂に新糊を用い美濃紙（長谷川紙）で肌裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 表装裂の肌裏打ち作業



5. 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 本紙の増裏打ち作業



6. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを施した。折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。

右：修復中 折れ伏せ入れ作業



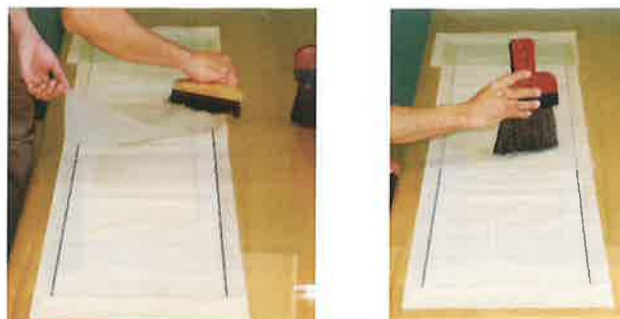
7. 本紙と表装裂を「袋表具」付け廻した。

右：修復中 付回し作業



8. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 総裏打ち作業



9. 補修（繕い）を施した箇所のみ補彩を施した。

右：修復中 補彩作業



10. 鑑、軸首、八双、軸木、掛け紐等を新調した。

11. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

右：修復中 仕上げ作業



12. 2幅対桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白薄絹袱紗に包み収納した。

右：新調した2幅対桐太巻添軸桐印籠箱



13. 修復後の写真撮影及び報告書を作成した。

VI. 修復前後の本紙の状態

1. 表装裂

修復前は表具装が解体された捲くりの状態であった。

修復後は上下・柱に茶地幾何学文様綾、一文字に薄金茶地花繁蜀江文緞子を新調し袋表具に仕立てた。上下・柱に使用した裂地は、デルクス科学染料を用いて染色した。



上：修復後 上・一文字の様子

2. 軸首

修復後の軸首は、首里城公園管理部の本件担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「黒檀撥軸」中国産を使用した。



右：新調した黒檀撥軸

3. 本紙の虫害欠失・破損欠損箇所

本紙欠損、破損欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用した紙は高知県立紙産業技術センターの本紙繊維組成試験結果を元に同質の宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復前 右幅 中央部虫害欠失



修復後 右幅 中央部虫害欠失



修復前 右幅 下部欠損箇所



修復後 右幅 下部欠損箇所



修復前 左幅 上部欠損破損箇所



修復後 左幅 上部欠損破損箇所



修復前 左幅 中央部虫害欠失



修復後 左幅 中央部虫害欠失

4. 本紙の折れ

斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。



修復前 本紙右 下部 斜光線写真
強い折れが多数確認できる



修復後 右幅 下部 斜光線写真
折れが収まり平滑な本紙面



修復前 本紙左 下部 斜光線写真
強い折れが多数確認できる



修復後 左幅 下部 斜光線写真
折れが収まり平滑な本紙面

5. 本紙染み・汚れ

汚れの除去を行った。本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。作業は本紙を傷めない範囲にとどめた。



修復前 本紙右 上部 染み・汚れ



修復後 右幅 上部 染み・汚れ



修復前 本紙左 下部 染み・汚れ箇所

修復後 左幅 下部 染み・汚れ箇所

6. 本紙裏面

左幅本紙裏面、上部に「古雪品製」朱印が確認された。

右：古雪品製の朱印



VII. 作品の技術分析

高知県立紙産業技術センターに依頼し、本紙の繊維組成試験（JIS P 8120）を行った。詳細は以下の通りである。

1. 本紙の繊維分析

試験の結果「青檀」の繊維であるという結果を得た。このことから本紙は中国産の「宣紙」と思われる。ニレ科青檀属で中国に多く、青檀の皮は宣紙の主原料である。

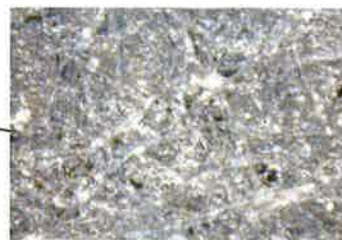
右：「青檀」の繊維



(高知県立紙産業技術センター撮影)

2. 本紙の顕微鏡撮影

本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



文字 黒



本紙 料紙



朱印 朱

VII. 修復諸資材

1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。
肌裏打ち・欠失破損箇所補修・折れ伏せ入れ等各所に使用。



②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。
増裏・総裏打ちに使用。



2. 染料

天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノ木属夜叉五倍子の果実。

果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙の染色に使用。



3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。

本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙（昆布尊男製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。

増裏紙に使用。

③宇陀紙 福定（上田俊雄製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙、強靱で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。

総裏紙、上巻き絹の裏打ちに使用。

IX. 修復写真

修復前 本紙右左全図





修復前 本紙右左全図 赤外線写真

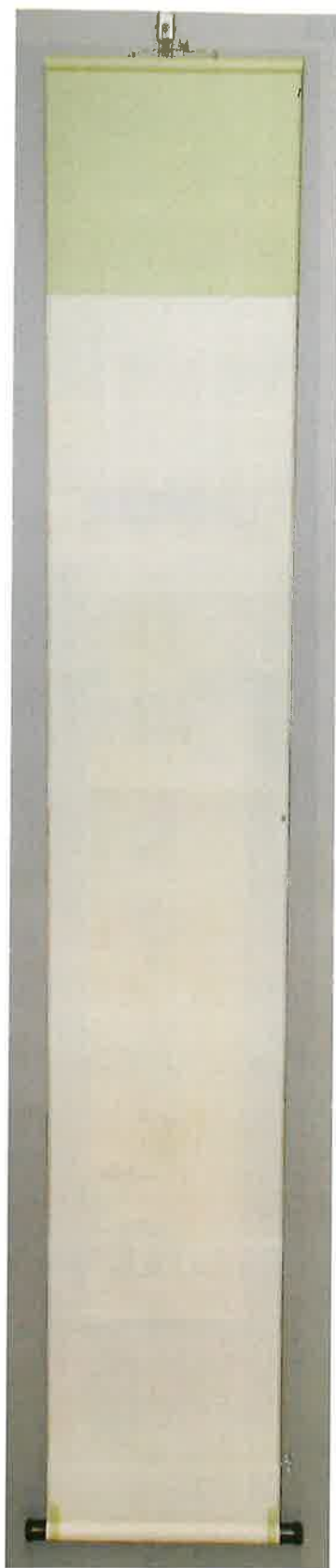
紫外線螢光写真



修復前 本紙右左全図 紫外線螢光写真

修復後 右幅左幅表具全図





修復後 左幅表具裏面全図



修復後 右幅表具裏面全図



修復前 本紙右 斜光線写真



修復後 右幅表具全図 斜光線写真



修復前 本紙左 斜光線写真



修復後 左幅表具全図 斜光線写真